

## 親の発達を促す省察的な家族対話を支援する ファミリー・ポートフォリオに関する研究

Study of Family Portfolio that supports Parental Awareness and Family Interaction

佐藤 朝美*	荒木 淳子	今野 知	佐藤 慎一
Tomomi SATO	Junko ARAKI	Satoru KONNO	Shinichi SATO
*東海学院大学	産業能率大学	株式会社 Switch・	日本福祉大学
Tokai Gakuin	SANNO University	エンタテインメント	Nihon Fukushi
University		Switch entertainment Inc.	University

〈あらまし〉本研究は、親の発達に重要な「親としての気づき」と「親子の相互作用」を促す省察的な家族対話を引き出すファミリー・ポートフォリオを構築し、実践と評価を行うものである。家族は多様化しており、多様な支援が行われているが、家庭の教育力向上のためには、親自身が子育ての楽しさに気づき、発達していくことが重要であるという。そのために本研究では、省察的な家族対話を引き出すよう支援し、家族内において学び合い、親として成長出来る場として機能するよう環境を構築する。家族支援、親教育、生涯発達やポートフォリオ等の研究知見をもとに、子どもの写真や映像、日記等、成長記録を取りためるといった日常の行為を、本研究で提案するファミリー・ポートフォリオを用いることで、親としての発達を促す学びにつなげたいと考える。

〈キーワード〉 親子、家族、生涯発達、ポートフォリオ

### 1. はじめに

都市化や核家族化、少子化、雇用環境の変化等、子育てや家庭教育を取り巻く環境が変動する中、文部科学省では、「家庭の教育力」の低下を課題に挙げ、2011年には「家庭教育支援の推進に関する検討委員会」を設置し、子育てに関する親の学び促進、親の交流・地域参画促進、親と学校との信頼の構築、地域資材の活用力向上等、様々な取り組みを行っている（文部科学省「家庭の教育力の向上」）。

「親としての発達」は、子育てスキルの獲得にとどまらず、人格的社会的発達を含み、子どもの成長発達に伴いながら変化し、社会の変化に対応しながら親役割を再形成させていくものである（柏木 2003）。そのためには、「子どもと向き合う」ことが必要であり、親自身が省察的に考え、実践していくための「リフレクションを促す家族対話」が重要である（Thomas 1996）。省察的な家族対話が親としての意識や子どもとの相互作用の変化を、さらには子育ての楽しさへの気づきをもたらす、親自身の自尊感情を高めるという。このような親が発達し、成長していけるよう持続可能な仕組みを作ることが求められている。

現状では、子どもの成長記録として写真や動画

を日常的に撮りためるほか、画像共有サイトやソーシャルネットワークサービス（以下 SNS）等の各種ソーシャルメディアに記録し、家族だけでなく親戚や知人と共有する人が増えている。日々感じたことや考えたことをブログや SNS に書いているケースも多く見られる。それらの活動は親としての気づきを促す可能性があり、多様な形態／場所に蓄積しているデータをポートフォリオ化して集中管理することで、親自身の成長、特に父親を巻き込む形で支援する環境を構築できるのではないかと考える。

### 2. 本研究の目的

本研究では、親としての成長を促すことを念頭に、省察的な家族対話を引き出すファミリー・ポートフォリオを構築することを目的とする。省察的な家族対話とは、親としての気づき（Parental Awareness : PA）を促し、親子の相互作用（Interpersonal Interaction Themes : IIT）がうまく行えることを指す（Thomas 1996）。親は親としての資質を初めからではなく、育児を通して身に付けていくものであるが、その際、楽しい遊び等の活動を行う事が重要であるという（Cohen 2002）。そこで本研究では、活動デザインを含めたファミリー・ポートフォリオを構築する。

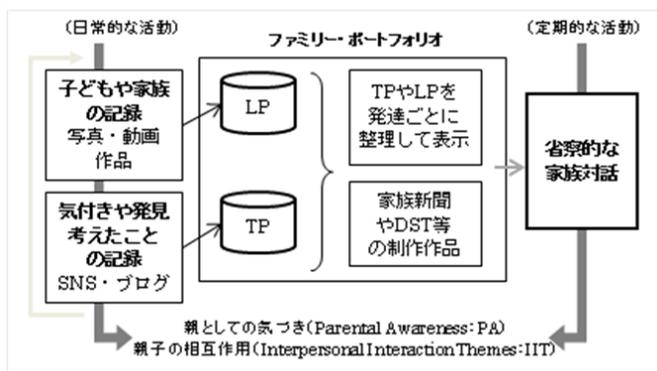


図1:ファミリー・ポートフォリオを用いた省察的な家族対話

### 3. 方法

本研究で想定している支援は、講習会等の一過性のものでなく、

- ・データを蓄積していく日常的な活動
- ・蓄積したデータを活用する定期的な活動

から構成され、そこから省察的な家族対話を引き出すことを想定している(図1)。そこで、対話支援に有効なコンテンツとその蓄積・共有の方法を明らかにする必要があり、以下の手順で進める。

#### 3.1. ファミリー・ポートフォリオの設計

教育分野でのポートフォリオには、ティーチング・ポートフォリオ(以下TP)とラーニング・ポートフォリオ(以下LP)の側面がある。TPでは、教育者が教育活動の記録、振り返りを行うのに対し、LPでは、学習者自身がさまざまな過程の記録等の蓄積から目標に対する学習を振り返るものである。本研究で想定しているファミリー・ポートフォリオは、子どもの育ちに関わる育児情報やそれに対する気づきの記録であるTP、写真や動画、作品を含めた子どもや家族の生の情報を蓄積するLPから構成される複合的なものであると考える。そこで蓄積するデータの種類とタイミング、方法を検討するために、ICTを活用している育児期の家庭のデータの蓄積方法・利用法に関する調査、子どもが成人した共働きの家庭に対してこれまで行ってきた情報共有の形態や活用方法に関する実態調査、家族支援、親教育プログラムに関する調査、ポートフォリオによる学習支援の研究と現状のソーシャルメディアの

学習利用の調査を行う予定である。これらの調査から、ファミリー・ポートフォリオの要件を導く。

#### 3.2. 活動のデザイン

次に、ファミリー・ポートフォリオを用い、「親としての気づき(PA)」と「親子の相互作用(IIT)」の向上を目指した活動をデザインする。日常的な活動では、TP

やLPに子どもの記録を蓄積する際、発達段階に

適合するフォーマットで入力・表示することで親としての気づきを促す方法を検討する。定期的な活動では、時系列に子どもの様子を表示したり、家族新聞やDSTの作成等、家族で共同作業を行いながら家族内での変化を可視化するような仕組みを考える。

構築したファミリー・ポートフォリオは、実際に数家族に一定期間使用してもらい、使用状況をシステムログにより分析するとともに、ファミリー・ポートフォリオが子育てスキルや親の発達(PAやIIT)にどのような効果をもたらしたかについて評価を行う。

#### 謝辞

本研究は、平成25年度科学研究費補助基盤研究(C)(課題番号:25350923、代表:佐藤朝美)の助成を受けている。

#### 参考文献

- Cohen, L. J. (2002). Playful parenting: An exciting new approach to raising children that will help you: Nurture close connections, solve behavior problems, encourage confidence. New York: Ballantine Books.
- 文部科学省「家庭の教育力の向上」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/katei/1246352.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/1246352.htm)(2013.07.17 参照)
- 柏木恵子(2003)「家族心理学—社会変動・発達・ジェンダーの視点」東京大学出版会
- Thomas, R.(1996)Reflective dialogue parent education design: Focus on parent development. Family Relations 45.2,pp189-200